研修医よ来たれ、安芸へ。

県立あき総合病院の地域における役割

院長　前田 博教

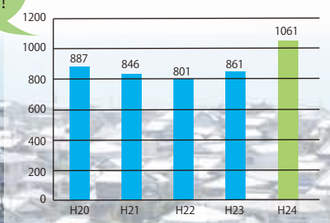
宮崎医科大学（現宮崎大学）卒業後、高知医科大学（現高知大学）第二外科入局。98年ペンシルベニア大学留学。帰国後05年高知大学第二外科講師、10年同大学准教授を経て11年高知県立安芸病院院長。（12年あき総合病院）

医療機関が少ないこの安芸地域では、どんな病気でも診てくれて、全ての患者さんのニーズに応えることができる、すなわち総合病院が必要です。例えてみると、何でもそろっているスーパーマーケットで、中には専門店も入っていてブランド品も売っている、モールのような病院と言ったところでしょうか。決して高級デパートである必要はなく、普段着で入っていけて、地域に根付いた病院、そんな病院があき総合病院の姿です。この新しい総合病院には若いドクターの力が絶対に必要です。ここでは専門性を活かしながら、ひとり一人の患者さん全体の診療にかかわることができます。

病気の初診から治療、退院後まで一連の流れに携わることは医師としての実力をつけるのに重要だと思います。都市部の病院では決して得られないものが、そして若い人にとって将来きっと役に立つ経験が、この病院では得られるものと思っています。ともに地域のために働いていきましょう。

7年ぶりに1000台超！

救急車搬送件数の推移



地域における役割はますます高まっている！

臨床力アップを目指す若い医師に向けて

内科医長　的場 俊

三重県出身・昭和42年生
自治医科大学卒業後、高知県立中央病院、高知県国保大月病院内科、宿毛市立沖の島僻地診療所、馬路村馬路診療所、国保梼原病院、岩手県国保藤沢病院勤務を経て、H24.4より現職。

基礎的な臨床力をつけるために、マニュアルや決まった手順で検査や診察を学ぶことは大変重要なことです。また、大きな病院で症例を積み重ね、専門医としての経験値をあげることが重要なのは異論がありません。

では、社会人として伸びるため最も重要なことはなんでしょうか？それは私は、「人がやらないことを自ら率先してやる」、「今、目の前にあることに真剣に取り組む」、そういった姿勢を持つことだと思っています。大病院であろうが、診療所であろうが、どんな職場であろうと関係ありません。そしてもう一つ、医療人としてどうしても備えてもらいたいことがあります。

それは、「この人の笑顔を見たい」、「患者さんの体調・気持ち・生活や環境をどうすればよい方向にもっていけるんだろうと」、思いやる『心』です。医療の原点はまさにそこに始まると思います。

プロとして仕事をする以上、給料に見合う仕事をするのは当然です。しかしモチベーションなくしては良い仕事はできないし、長続きしない。やっていて充実感がなければ自分が嫌になってきて、気持ちが路頭に迷ってしまいます。皆さんにはぜひ、楽しく仕事をしてもらいたい。そのためのお手伝いができればと思っています。一緒にチャレンジしていきましょう。

地域医療を支える力に

津田クリニック院長　津田 道子

高知県出身・1979年に徳島大学医学部卒業後、徳島大学附属病院、高知赤十字病院、徳島県阿南医師会中央病院、徳島大学附属病院、国立善通寺病院勤務を経て、1994年より現職。

すこやか文庫

開館日：火・金曜日
（10:00 ～ 16:00）
※津田クリニックに併設

この県東部は、県立あき総合病院と地域の病院・診療所がお互いに顔の見える診療連携で患者さんの診療にあたっています。

患者さんは複数の疾患を同時に持っていることが多く、専門医であっても常にジェネラリスト（総合医）であることが要求されます。若い先生方が研修をされる時には、患者さんの生活背景などにも心を配ることが出来るジェネラリストのいる病院を、そして各科の垣根が低く、いつでも相談し合える医局の雰囲気と楽しく元気に仕事をしている先生が沢山いる病院を選んで頂きたいと思います。

今の県立あき総合病院は、若い先生方の教育環境の整備に積極的に取り組まれている前田院長と、指導医として理想的な的場先生を中心に若い先生方を迎える体制が整ってきていると思います。

遠い昔になりますが、私自身の勤務医時代を振り返った時、指導して下さった先生方の一言一言や患者さんに対する思いや学び続ける姿勢が今の私の医師としての原点になっていると思います。

一人でも多くの若い先生方が県立あき総合病院のスタッフとなり、この地域の医療を支える力となって頂きたいと願っています。

医療法人 祐和会
津田クリニック
〒784-0022
高知県安芸市庄之芝町 9-34
TEL：0887-34-1195
FAX：0887-34-1239
診療科目：内科